

摘菴漫筆

五

和書門類	
二七二七三號	九一冊
一〇冊	

内閣文庫	和書類
二七二七三號	一〇冊
二二二函	五架

内閣文庫	
番號	和 27273
冊數	10 (5)
函號	213 70



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



原本の文字など不明瞭な箇所があり

云々

○さらば死有るはさるる後をたれ方御承り又去りて
 或方なり去人を或人かりありをさるる云々カサタの横洗
 よて今程梳洗の俗歩ゆとらるるいへて高の邊にて云々
 ○夜ふだといふ長秋の奴僕として益の仕勞さるる
 諸工人を諸工を秘しほまよやうとせぬ端をとりて物を
 煮て食ふ後を夜漏と云々年復年よ出せり云々髪洗かた
 夜ふだの夜延の轉せり之益を夜延と後昔と浦山は夜延
 かりと
 ○すしだるるを御承りいふがしと云々

極いかりすしと金かせは行楽の物と云々
 云々

○老樂と湯桶洲の書一そのるる老らると云々
 老矣と書てらると云々
 云々

○俗回と髪をたぐさといふ
 云々

ひわのつら〜とびら〜なり 今作編糒と云ハ北条氏飯
 飯の〜湯が〜とつなり〜枕糸紙よ衣編糒と云ハ
 夜よかしのつら〜とびら〜と粥も飯も定免に梅糸
 粥の制昔の今と云ふ〜南都の洛若粥揚菜〜
 と云用つら〜とびら〜下膳〜たるもの編糒は
 いほと磨の編糒〜とびら〜粥の食〜と云ハ古筆
 の粥〜とびら〜源氏物語粥を〜と云ハ
 枕糸紙の粥の節供は〜と云ハ古筆〜と云ハ
 雲の〜と云ハ或云太古と云ハ粥〜飯〜の制と云ハ
 兵も〜と云ハ飯〜と云ハ今軍防令の糒を〜と云ハ

と云〜と云ハ飯と食〜と云ハ官〜と云ハ下司のみ
 糒なり〜は惣物詰〜と云ハ〜と云ハ上國と
 云ハ飯の制と云ハ都路〜と云ハ粥〜と云ハ
 たるを太古完居の〜と云ハ雑炊〜と云ハ
 雑煮と食〜初而名〜と云ハ清〜と云ハ元旦粥と
 合〜と云ハ堯拜粥〜と云ハ洗粥音祝〜と云ハ
 粥〜と云ハ
 ○世俗攝爛の〜と云ハ半は孫〜と云ハ年以〜
 下〜歴中田家〜と云ハ〜と云ハ夜以〜
 灯の〜と云ハ〜と云ハ〜と云ハ成人〜



大石又立童
田春林画



らうそくの屍を吹だしと扱ま後減らうそくの屍と
 吹くよ再び珍狐より方方うしひかし夫珍狐を人乃
 息のかつてしる物を喰ぐ人の念ひ餘りの物を念ひ
 まかす故に珍のどく夜に墳塚の屍を吹がうり
 ○和歌の題と出たままを以て舊古の如くを題を
 昨よもどくは詠まねたう故に昨より後自己の才を以て
 御下りことば人れちと直まうなり扱まひこそ出題
 浄免との今とと至る程とては推し也 平初推のこれより
 半百の今も七知とる人の月よ出題せしこと一和歌の
 勝間守貞のこたう客易の後、扱んいうるは詠治の

題小とゆがれとのと題しより竹徑絡袿帯と題し
 扱小とてを風雅の道すばや風雅の扱れ分ぬと是扱し
 酒後と風雅とのをわると大お伴いふと一漫文小雅
 へ正也とていふ一うべと道と立たりやそれ芭蕉の古
 墳伊州と仰ぐ古に塚と云るは古是皇青史の建らしと扱者
 法師の墓と流すとより反りなく扱者百道とやうな扱者の
 飾と勝つとていふ一道と入る法師と有る浄俗に扱の扱は
 号をふと辨せたりや後記の者比下の号を以て扱うと
 是雅とていふ扱者通と縁とるその風雅の道とわん
 いさ也縁とていふそのなり扱わちの道とて扱下とふ

既服治の家道をへかりとせと多下一 泚潜よいとて 点者
 たりねのものふかぬ家道一 條とるハ 潜論の事一 於りのを
 ○此頃流沙の泚潜と見る小虚実の扱ひか 伏実中の実よ
 落て唯云勿海の白あかき 伏さしひこしこふ云云とて 掬
 ころるころり 虚実し云は 易の云ふ初とて 終をいふ 伏上
 とて 下といふ 乾の初九 潜初より 未所の 有象 飲酒を
 虚と云実を 現より 老莊の 寓言と 勿海とて 此れ 伏
 にく 佩刀といふ ば 柄頭小尾とて 尾从分とて ころり 小尾より
 ありま 支と 帽とて 是と云 頭をば 亦 汚えと云 未 表表小虚
 実より 是と云 尾有ハ 臂尾より 是と 頭有ハ 膝頭より 是

自然の虚実といふを 李白が 詩よ 白髪之を 文とて ころり 小
 して 長とて ころり 向髪かり 乃 虚とて 孫楚 似 個 長と 実を
 清く わかち は 古今 集の 初と 小と 是と ありと ころり 是と 考 乃
 ありと 虚と 虚実を 是と 行 ねと 是と ありと 是と 考 の
 後が 武 年 試よ ありと ありと 苦が ありと 定と 虚実の 工 何 ありと
 是と 是と ありと 是と 古今や 是と 詩の 上の 款と 扱ふと 是と 是と
 是と 是と ありと 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と
 猪田の 桃と 火 半と 是と 是と 一 滋や 道 不 実と ころり 是と 是と 是と
 夙雅の 骨髓 たりと 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と
 首と 是と 根の 解 ころり 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と 是と

ほむい虚うつらかうりとの虚実うつらとより分別えべつせし十論じゅうろんは確たしかまかたや

唯ただ之條このじょうの櫓ゆるうり月つきをよんで凍こらうか

大夢おほいゆめやかうば崩くずれし櫓ゆるのとき

是こゝの條このじょうの櫓ゆると崩くずれ櫓ゆると凍こと大夢おほいゆめよりたるとかうりたるとも

寂さびしとらるるもこころまじりたる処ところが骨こつ髄ずいたるやゆふんを

けりかうらむ打う聴しはけりや大夢おほいゆめのちと物もの有あるといふゆへハ景けい

風流ふうりゅうの道具どうぐとはいふと下したりて順ゆん凍とう点てんとよりたるとたるとはつと

るの之この拙せつきたるもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

初はつ日にちとらるとの遠とほくも必要ちやうびやう不ふ以い着ちやくと舞ま妓き衣裳いさうしやうとらうりて

すべかり定さだ家か卿きやうを寂さびしとらるるもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

てつとる涙なみだとて一いっ道みちをさるるもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

たんととよてかひ車くるまをとりて揺ゆるもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

とらるる宣のたまへりてやねむるの冥みやうよのこころとらるる

池いけ沼づま 道みちをさるる木き槿ぎんを馬うま小こ舎しゃりて

実まこと 道みちをさるる木き槿ぎんと馬うまの舎しゃより

初はつの白しろきよふもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

りかり後の白しろきよふもさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

くさね切きりて下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

けりともあはれ流ながるる美み瑠るの秋あきいづれも東あづま花はな坊ぼうが十じゅう

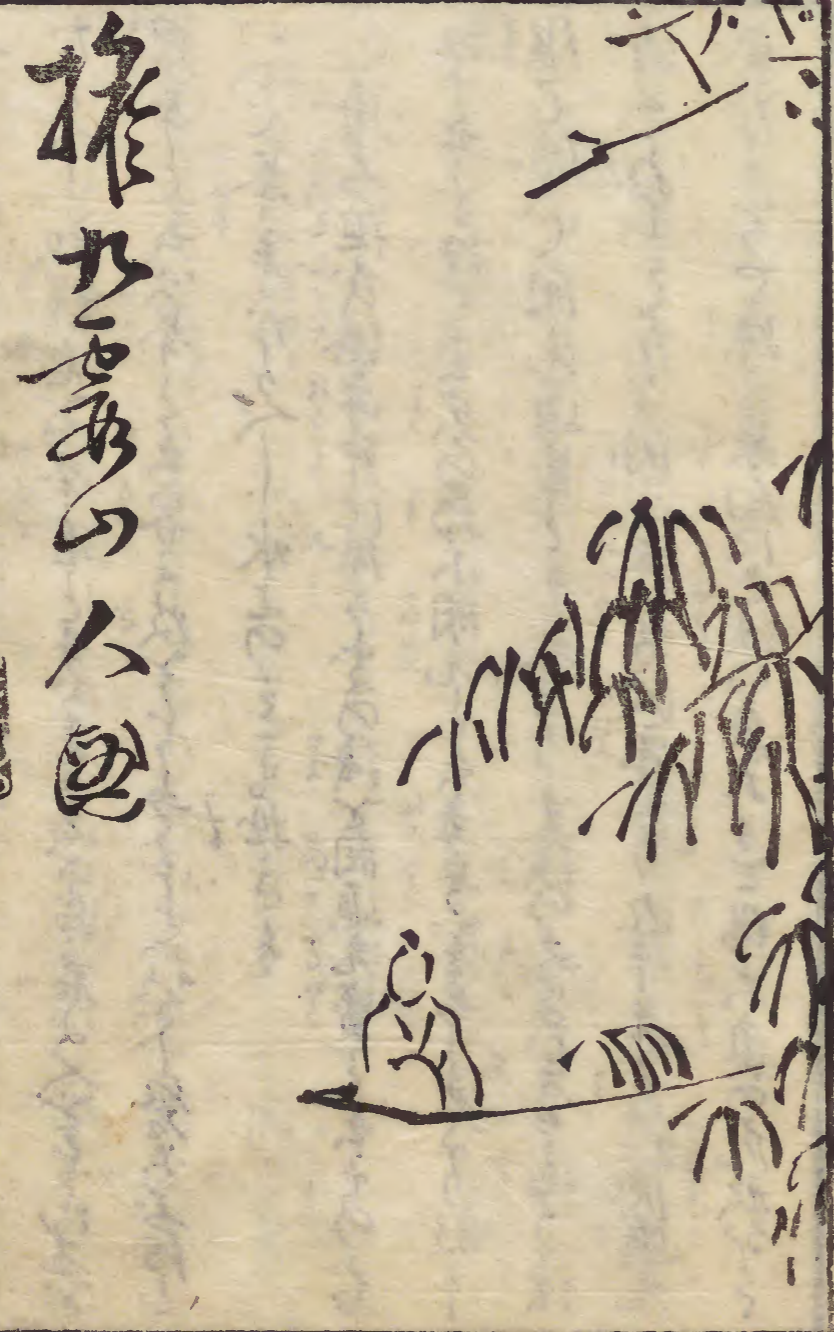
海うみかどいらるとさうして下したりて役やく者しやのち舞ま妓きの秘ひ言げんらんと

とてよ十海の中に一字深茶活稱自る短六短とた部の必書
と訂より実とままと部したる物かふ一一二月のる元坂が云
並一くくあをわいを仍書かた下一と云

○常人伏して寝るものと病と長病伏と病との生くこと
しと相法の書して七月五日一が地年病者と減るよ十と差
り度事が考へるや又たより鹽書し非じて相書して見あり
一身ゆかき道し非を和伏せども相法の書元来素冠より
穴所を定先部位皆指これよなはく年多く見る

○鷓鴣と越の國と序多き名にしてと考代と保く慕ふ名を
故よ城を南枝葉加馬水風漸と作よりな釣ふ名病の

のこぼが巢と作らぐめく鷓鴣と伏卿小自然巢は存は韓魏
燕弁の園をたてと南よこ一たる枝と巢とくくを故と慕
と自然と保れもくは依と羈旅と故卿と思ふ保と保と考代
その名唐詩の越中懐古と唯有鷓鴣花と云一南越の名
かたはと鷓鴣ふ寂寥たることと作のあふぐんを越はる
くう半と自然とつるくくあり海人等を鷓鴣菜とくく南
海のふけつる物より故よな釣ふも薩摩然却一両浙より
出つる此の天よ変る又巫たりとてとれ行
○雛妓初て人よ寝とくくしと水よとくくとせ半淡とくく
と一の商賈の若物と船より同丸一初てとくくを水よと云



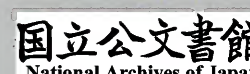
推也為山人也
暮陽



〇 准(のち)て云々其(の)り然(しか)しく万葉(の)末通女(の)書(の)てい(の)ど
 人(の)ま(の)つ(の)え(の)ざる(の)か(の)婦(の)と(の)い(の)え(の)ど(の)初(の)て(の)揚(の)ろ(の)雜(の)奴(の)山(の)金(の)末(の)通(の)揚(の)
 か(の)る(の)ぐ(の)一(の)叔(の)揚(の)尾(の)と(の)奉(の)尾(の)と(の)ま(の)る(の)より(の)る(の)る(の)君(の)よ(の)ら(の)と(の)い(の)ひ(の)り(の)や
 薦(の)奉(の)と(の)云(の)吹(の)奉(の)と(の)云(の)客(の)の(の)岐(の)と(の)い(の)り(の)ま(の)る(の)と(の)な(の)く(の)し(の)ら(の)あ(の)る(の)は(の)と
 い(の)て(の)奉(の)亭(の)なり(の)ぐ(の)一(の)水(の)上の(の)さ(の)も(の)拙(の)と(の)を
 〇 唐(の)大(の)徳(の)年(の)中(の)に(の)揚(の)ろ(の)ま(の)の(の)法(の)と(の)用(の)通(の)元(の)寶(の)と(の)云(の)て(の)の(の)ら
 九(の)十(の)年(の)と(の)經(の)て(の)ま(の)宗(の)の(の)初(の)小(の)用(の)元(の)と(の)云(の)多(の)号(の)と(の)い(の)ひ(の)り(の)なり
 漢(の)の(の)傳(の)へ(の)て(の)用(の)元(の)通(の)宝(の)と(の)云(の)来(の)たり(の)ま(の)漢(の)の(の)文(の)字(の)ハ(の)元(の)と(の)比(の)り(の)漢(の)
 通(の)之(の)形(の)と(の)かり(の)用(の)元(の)年(の)号(の)改(の)元(の)より(の)九(の)十(の)年(の)お(の)け(の)用(の)通(の)元(の)
 宝(の)なり(の)と(の)や(の)殊(の)と(の)表(の)面(の)に(の)上(の)法(の)の(の)象(の)あり(の)と(の)揚(の)大(の)真(の)の(の)瓦(の)形(の)なり(の)と

い(の)え(の)ら(の)と(の)念(の)妻(の)逆(の)なり(の)ぐ(の)一

〇 羅(の)也(の)仲(の)が(の)之(の)國(の)志(の)演(の)義(の)と(の)譯(の)して(の)通(の)俗(の)之(の)國(の)志(の)と(の)て(の)世(の)上(の)流(の)布(の)
 の(の)中(の)小(の)兵(の)の(の)國(の)か(の)て(の)魏(の)の(の)張(の)遼(の)と(の)水(の)火(の)なり(の)も(の)恐(の)怖(の)る(の)小(の)史(の)を(の)
 懸(の)と(の)ふ(の)と(の)遠(の)来(の)く(の)と(の)い(の)え(の)り(の)故(の)に(の)中(の)朝(の)も(の)漢(の)史(の)小(の)館(の)を(の)と(の)り(の)
 した(の)し(の)口(の)く(の)と(の)云(の)ら(の)は(の)妻(の)さ(の)と(の)譯(の)せる(の)人(の)明(の)會(の)せ(の)り(の)と(の)い(の)ひ(の)
 し(の)口(の)く(の)と(の)呂(の)律(の)く(の)れ(の)勢(の)ぞ(の)か(の)り(の)金(の)嬰(の)史(の)を(の)り(の)て(の)岡(の)合(の)夷(の)れ(の)
 志(の)あ(の)ん(の)と(の)て(の)呂(の)律(の)く(の)と(の)い(の)ひ(の)り(の)ま(の)る(の)と(の)云(の)京(の)寺(の)の(の)常(の)夜(の)よ(の)法(の)の(の)
 鮮(の)中(の)ふ(の)ら(の)ぶ(の)る(の)を(の)口(の)く(の)が(の)也(の)なり(の)と(の)呂(の)律(の)が(の)也(の)なり(の)と(の)云(の)
 〇 陵(の)を(の)り(の)し(の)は(の)妻(の)た(の)と(の)て(の)地(の)あ(の)ふ(の)妻(の)の(の)か(の)ら(の)ら(の)と(の)い(の)ひ(の)り(の)
 造(の)り(の)初(の)し(の)の(の)之(の)故(の)ハ(の)花(の)奴(の)と(の)造(の)り(の)と(の)或(の)誤(の)い(の)ひ(の)り(の)と(の)い(の)ひ(の)り(の)



八花教と云き初は圖や一鬼門の条^〇これを神受者流ハ
 いさうやるや洋^{つみじやう}七代又或は^{あつらん}後花を唐^{しやう}の事^{しやう}なりや
 仕古より皆圓^{まゝ}後^ごといさうや^{あふか}後^ご抄^{しやう}別^{べつ}今^{いま}の社^{しゃ}の什物^{じやくぶつ}乃
 後^ご之^の後^ご花^{はな}の直^{ちやく}後^ごなり^{なり}裏^{うら}面^{めん}滋^し又^{また}法^{はふ}宗^{そう}して^{して}大^{だい}古^この絶^{たつ}品^{ひん}と
 えて文字^{もんじ}うそ^{うそ}なり^{なり}後^ご後^ごなり^{なり}書^{しよ}風^{ふう}宗^{そう}良^{らう}七^{しち}代^{だい}の頃^{ころ}と
 ○京^{きやう}師^し東^{とう}の系^{けい}極^{ごく}通^{つう}哲^{てつ}預^よ寺^じハ^ハ淨^{じやう}土^ど宗^{そう}の^の中^{ちゆう}に^に一^{いつ}寺^じあり^{あり}て^て本^{ほん}寺^じ
 是^{こゝ}日^{にち}以^{もつ}佛^{ぶつ}の^の次^{つぎ}の大^{だい}佛^{ぶつ}之^の寺^じ門^{もん}の^のち^ちに^にあり^{あり}て^て後^ごと^と賣^う家^け有^あ
 大^{だい}以^{もつ}餅^{もち}と^とて^て珍^{めづ}味^みなり^{なり}一^{いつ}富^ふ臣^{ぢん}の^の材^{ざい}なり^{なり}て^て後^ご
 是^{こゝ}大^{だい}岡^{おか}江^え東^{とう}六^{ろく}波^は羅^らの^の南^{なん}に^に方^{はう}廣^{くわう}寺^じ大^{だい}以^{もつ}と^と建^{けん}立^{りつ}せ^せて^て乃^{なり}な^なり^り
 河^かの^の餅^{もち}大^{だい}以^{もつ}餅^{もち}と^とて^て新^{しん}の^の店^{てん}を^をあ^あり^りて^て後^ご富^ふ臣^{ぢん}陳^{ちん}姓^{せい}なり^{なり}

系^{けい}極^{ごく}通^{つう}の^の初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 一^{いつ}の^の系^{けい}極^{ごく}通^{つう}の^の初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 酒^{しゆ}は^はた^たる^る風^{ふう}流^{りゆう}家^けの^の傾^{けい}城^{じやう}禁^{きん}短^{たん}也^やと^と云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 あ^あり^りて^て一^{いつ}の^の系^{けい}極^{ごく}通^{つう}の^の初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 哲^{てつ}預^よ寺^じ大^{だい}以^{もつ}の^の門^{もん}か^かり^りと^と云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 後^ご徳^{とく}ハ^ハ其^{その}頑^{がん}とい^いふ^ふ
 ○和^わ州^{しゆう}郡^{ぐん}の^の地^ち田^{でん}武^ぶと^と云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 一^{いつ}の^の系^{けい}極^{ごく}通^{つう}の^の初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}
 一^{いつ}の^の系^{けい}極^{ごく}通^{つう}の^の初^{しよ}は^は後^ご花^{はな}の^の業^{ごう}と^と後^ご哲^{てつ}預^よ寺^じ通^{つう}柳^{りゆう}の^の傍^{はう}に^に云^いは^はし^しり^り抄^{しやう}

けるをなくこ戻かろるなごい身みのままま返かへしる者ものをま見みてますまのま

 いいぬぬ路ろりりまますするる者ものをま見みてますまのま

 ももおおててみみららのの程ほどをま見みてますまのま

 ああししのの古ふる師しをま見みてますまのま

 ししかかんん実じつはは風ふう雅やのの儀ぎをま見みてますまのま

 狂きやう方ほうはは百ひゃく首しゆといいふふ者ものをま見みてますまのま

 板ばん本ぼんをま見みてますまのま

 今いま世よ東とう初しよのの程ほどをま見みてますまのま

 とと控かへせししとと

○天てんとと天てん公こうのの分ぶんをま見みてますまのま

主しゆ家かよりより身みののまままま返かへしる者ものをま見みてますまのま

 ここのの儀ぎをま見みてますまのま

 糸いと跡あとをま見みてますまのま

 ○かかんんのの會かい者しやとと福ふく者しやをま見みてますまのま

 福ふく者しやとと福ふく者しやをま見みてますまのま

 かかしし福ふく者しやとと福ふく者しやをま見みてますまのま

 もも風ふう雨うをま見みてますまのま

 のの儀ぎをま見みてますまのま

 紋もん下げをま見みてますまのま

 世よ活かつ人にんとと世よ活かつ人にんをま見みてますまのま

慶一七内ノ目を空^{ひやう}と^らと^らる財を儲け^{たぐ}て^る費^{たぐ}は^ら
 出^い入^いの差^{たが}ひ^さの^まか^んの^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 と^を^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 技^こ術^{じゆつ}を^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 ○和州^{わしゆう}の^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 年^{とし}頃^{ころ}わ^らず^らる^あい^ん

自^{みづか}縁^{えん}と^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 折^{しやう}は^らず^らる^あい^ん
 夫^これ^は

自^{みづか}縁^{えん}と^あら^わず^らる^あい^んの^あら^わず^らる^あい^ん
 折^{しやう}は^らず^らる^あい^ん
 夫^これ^は



蘭水齋画



情話とてつらなる同の誤なり

○芭蕉七部集の内その目録と註解せし書せし是と
るるよ才との白

有明のま水は酒をほくかえ

さけやとまぶさところやと酒店酒場など見送つて此
屋の字へ家屋のやかりばよふまのやかりけやの字を
よふまとの大まきとぶすこのよふまを酒ひつてこれと
酒店と見だすこのよふまを左侍等しくおるはたかり
はつ字のやふまをかりたりす一應は酒店とて一か席的
よりい候ふと有明のま水とつらくはすぬ解かりは有明

のま水といは情宵の侍は物か彼れ花か或はは葉のかまふと
してはう深なる名かり物か彼れ花か或はは葉のかまふと
首のま水といはより子孫は姓と物うとと縁せりる縁のま
有明のま水といはともさり司がまをばかすれともはれせ
たりは くるとつらなるててあをまて云ははてこれ
とれははせとて下んはと悔悟はうかき流すまとの所
とからをこ別やと体しりすこのよふまを酒ひつてこれ
酒家と見るこれと下のてのまは抑音つたり作せし
とほまうてまの侍とからとつたは及てかりとて押ては
とてつらなるはとてつらなるてまかりとて又真よ

隣さうしん何より居る

此解よりいれりさうしん何より居る
天の志賢本とまじりて成初とて小賢なる物居る
今世歩路といえりしをほすを不及し
さうしんを論祖のさうしん漢滅れ小賢なる居る
いさうさうしん小賢といかりや嗚呼人の過より一士乃
過ると居るからそのを

七とが湯不交の粒ふて不盡くく一傳凡易の地雷復
の粒なりがの二十字とて終てて不盡之七廿て終るを
一と述てこと画い天の粒と大極の一既終り一奏盤の目乃

之百六十一と將奏の八十一と一終ら終るを

或沛方の家司たり人試考の分録となり一に卿法後とる
一のいぬも一少年もいれり一ふら一むの
神のいぬも一少年もいれり一ふら一むの
あはれしてよみかやしし毎歳発りしは
あはれ若なりしはたはれはあはれしと知る
若教がたれとのさうしん我家の大事と偶中めを録し
とてを後とるは捨て家のいかりとてか
とては是より功ありしとては是より功ありし
らや ○奏盤の目乃のいぬ形なるを助えといし

以かりしはうねてせぬ那那代餅の盤の表面の切り敷は
 血燭を七効せし者首を切るとあり処ふこといふ
 ○大雅堂と漢書と室一うせぬ士なり 侍は仕官の人と云 士とは平士と云 生俗
 二沈潜のかるくともこの二つはさうぶらぬ知命のまじ蔵且小
 いふのどやと同つて片の咽のま

此種冊末所乃儒家法氏の宗義なり たぐく 別々年交月十二首
 物なせしむも奇也又那と遊字のとれし一語とて

善粉晒とあまてくふれ来りか
 一とて出門からねとあることか

○米と五味と糸より故に衆人皆之を飽すは飽すは何ぞ五味

清湯なりといふや たぐく 夫米と水とを和して制して酒とて
 辛熱うて人として研ねてあはれ肥満せし醋と制するは
 剛とさうてたををちひんと應て是醴とせとてく後先長初と
 昔の粥とせとて鹹して脾とと鹵穿し一じ物とて昔味とて
 此も粥とて昔味瘠瘦と能は力乏しけり くぐ 昔味とて
 む効とてさうををさうとて一それ業の号とて余といはれ味
 のとかりぬは地烟煙作じうとてさうとれと業効がれたの
 以りら然と求じ採葉局と経せと割截せしむは行人とや
 ○痘疹とて古地古さうりと流業とて流は来とてと結
 二洋かりとて海はさうとて開はさうとてさうとて

此流のまゝ肥前の大村領かとい首より鹿鹿と云々此流と
 いふも近解は勢余文云々といふは他國の鹿鹿流といふ
 二の合とれども又感て鹿鹿病なりた有といふは同流の連
 こねと感て此流より拾りて病者後者を求深表と云々
 類族合意の者といふも拾りて半半なり一残者も後かれど
 誤て固よりいふ合意より隣村の傳傳し一をなると國中
 の流りと此とを容易鹿根絶せしむるはしむるは類
 族を別の間丸と改修も月より足胎毒は依や先天
 の遺火よりや他國の水と感せし者國中は充るは行なや

此流は流く一國一卿痘を知るは行なや謝氏の後にも算り
 痘瘡乃造化之殺穢兒童之劫數非可以常理測
 也治習之論但去胎毒之所致故者謂成胎以後
 勿復再幸者有謂初生之時探取其口中血者有
 謂懷胎十月勿食醴厚並燻滋候者至於燒肺煉
 砂免血稀豆諸方言人人殊及其試之百無一驗
 况有同母共胎孳生者而稠稀迥若天壤又有一
 時氣運吉凶不同倘遇其吉比屋皆安若際其凶
 夫札如麻至者一村中無復兒声者此蓋長平坑
 卒南陽貴人之比而祿命醫藥至此不足憑矣

○九傳云晋の畢萬首とけて功有る魏邑を封せしむ姓を魏と爲す下令の曰萬が後うらみ大かんと夫魏の大也萬を殺の至るることあり是今の世うそつマニのいらくをそのかり叔畢萬が後果して支候はけむと魏の社稷を祀せり名を實け實けり國家將祀必者洋墳しとて宜也

東照宮御代記 卷之五 大尾

釋尊御代記圖會

全部六册

山田意齋叟参考
前北齋老人圖画

釋迦如來の御文淨飯大王の御即位と幾端と橋曇彌摩耶而夫人の如來摩耶夫人の胎内小生と託し多事橋曇彌夫人摩耶と接し胎内王子の出生及夫人道師小呪咀せしむる條如來夢中ノ説法小母子思と鏡を更淨飯王藍毘尼園小花の宴と催し夕ひ悉達太子誕生の奇瑞未だ太子御幼推し善菩提心と説し謂釈迦提婆遺恨の如來悉達太子宮中と出て檀特雪山小難行し夕ひ正覺成道とて出山衆生と濟度し更迦葉舍利弗目蓮及諸羅漢佛弟と成和解耶愉陀羅女貞心提婆十惡須達月蓋而長者の信心流離王の畏惡釈尊御入滅五妙神力涅槃像の如も都て如來御代の事と記圖と如難有續也

浪花 好華堂主人著編

大伴金道忠孝圖會

前篇五冊 後篇五冊

同上

扶桑皇統記圖會

前篇六冊 後篇七冊

此書天智天皇御宇少海國緩の兵と遣はるるを有く、大伴金道忠孝の成、謂大伴真鳥兄と対家國と押領せ、奸悪大友白子浄原原天皇と御合戦、次弟金道の生立白虫木島の忠義雅明、乃我心真鳥の香榎金道万苦凌文、乃仇と復、本領小安堵せ、追の奇襲と、洩すに記、実録して勿論、小僧加、善と勸の悪と懲と使と、而自の勸也

此書八皇平代武天皇の御治世、醍醐天皇の御宇追の公事の根元宮等、院の草創代の人物の行条と紀と所習、役行者安部仲光吉備大臣衣通能光明、皇后良弁僧正弓削道鏡忠見押勝中、得姫傳教大師弘法大師田村九浦嶋、子小野堂在原行平兼平小野小僧、正通照管相其外古人の実傳と探、精々輯録、悉く圖画と、重富の書

新刻 萬代早引節用集大成

真字附 全二冊

節用集の善本數枚と此に便利成書變つた小物也、雖然、常用は文字不足のりて、隔習撥弄、遺憾少や、此度富田先生丹誠苦心乃功、積其不足、雅俗乃文字、編輯、尚諸人日用の便と、數多増加、新板大成、誠滿君、右に置る、故高覽と恰ん、支、希、而、也

○備葉指出來仕居り間、少用、向奉、希、上、作

増續 王代一覽

正編 廿五冊 初帙 十冊

此書、人皇百八代後陽成院天皇天正十五年、一百九代後水尾院天皇元和二年、三十年、此間の治亂、變政乃召草名人、遠士、詩歌、連、俳、茶、名、僧、知識、の、傳、紀、神、社、佛、閣、の、真、寢、金、銀、米、錢、此、差、分、り、記、し、之、歸、と、そ、の、由、原、書、ハ、其、所、以、舉、ぶ、り、以、抑、菴、先、生、盡、く、其、本、書、以、引、記、し、之、を、一、支、一、句、と、翻、亂、入、み、之、に、在、右、考、古、の、小、史、と、爲、し、續、編、ハ、元、和、三、年、より、之、を、知、也

関卷 驚奇 俠客傳第五集 善知鳥安方忠義傳

此書第四集四十回までハ故曲亭翁の他
 作ク善知鳥安方知処ナリ然ル曲亭翁
 物故シテ一少ナリテ竟ニ結局ニ至ルハ
 依テ浪華の森亭翁其篇ト撰メテ
 予五集四十一回トシテ本化若ク脚色ガ
 推考一ク彼意ハ遠ク守編速キトシテ
 五集五冊トシテ刊行ト六集ト既
 脱稿トシテ一ト述レバトモナリ
 著トシテ一若クハ四トモ此集ニ
 替ラハ高評ト賜クトシ

甲陽軍監合巻拾冊

名武田全書トシテ信玄公卿一代の戦功盛衰を記陣營
 兵伍の画圖と著一々邦書の兵書録トシテ佳編ナリ

右の書初編亦世四冊後撰四冊トシテ東京傳
 箱の編輯ナリト聞ク世ト小説布一
 面白ク妙極ト稱セリト云フハ結局ニ至ル
 止メテ他者物故ナリト云フハ看官甚惜
 此書依テ此度松亭金水先生ハ編五冊
 成續リ出スルナリト持行ク遺憾ハ
 人々著目一若クハ若クハ四言此集ニ
 篇ナリト高評ト賜メテ場人軍一トハ六編
 成年ハ別世ト金水ト云フハ変速ト云
 浪華書肆 群玉堂主人誌

新増補 萬世引節用集大成

此節用集を字數夥多ニテ文字を尋ルに仮名敷の
 早引ト其中に天地神佛官位人倫衣食器效草木
 生扶姓氏言語等の部分ありて仮名附ハ漢字家に
 与テ改メ又行々此字と階書時ハ傍の真字トシテ
 筆畫の類ガトシテ和漢官職姓名義現及堂上方
 諸所ハ名衆ハ邦毎小字領國城王等ハ別名知古跡
 神社佛閣悉ク國所ハ附テ本系種ノ異名トシテ

萬葉抄トシテ小字行表紙ナリ
 至極奇麗ニ仕立札上トシテ
 一ト甚便利ト云フハ

孫友性氏の尚時何國緒彦の涉藩中に有事と巨
 細小記。卷末に諸澄文手取之案文男女名頭相性
 年代六十箇諸玉一官都會社地日本官用姓名其外
 重寶の支數多衆既小漢土字書小凡四百三千余字
 一悉く記憶する者稀なり。本朝の熟字俗字至て
 夥多事は其取扱ふ文字と俄忘る事多し。茲今此
 五代早引を字數拾二万余紙頁八百二十余丁に成文字に
 ても編纂集録する古今未發海内無双の節用集形
 三都英諸國都會書林に寄ては求ては下以

日本百將傳一夕話 全十冊
 松亭金水編述
 柳川重信畫圖

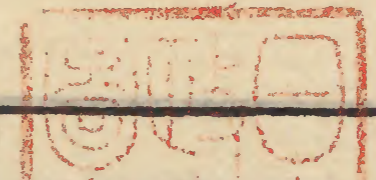
持と本朝因綱以來 神代のと因く舎て 神武の皇朝より今小賢び
 波面玉母が挑なして三年年小向もその中間小生も其あそむく或は恒河沙をかく
 限るも其人物はち小む威名海内小溢と功と美世小遺をのふ来奉て美ふ今そ
 ち中も傑然なる名將の事實代撰を輯むる處一百員上古の 神代東心
 のと元順ひ奉りて勲績を道臣令小訪まり、元龜天に際小至つて千古獨歩の
 豊公小畢心その併作者が杜撰の輯ある所あるを昔昔林羅に弄解する
 人物或は億兆の中より擇み出さして百將傳と題せられ各小一代の勲績の概
 略と漢字の銘せし書ある人のよく知所小して代不の事書なれ
 今に在りて作さるべき其文と題字小和らけ或は小神傳補して重寶の
 觀るるせと何事も小冊あり事ゆるるは我 皇朝小勲績の名將

傳と播りし惟異聞秘説と掲げしは是れ一々活紙のすうの彼浪華の編撰
 たる百二首の一夕作のその趣と擧げて終らざるの腹案有り幸ハ浪華の羣玉堂
 余が志小園意して用板せんと清ふより速に筆を採りて短才固陋も顧む拙哉
 脱、持小上して速に筆を採りて短才固陋も顧む拙哉
 神武東征の御時より天正の際に至りて年数九十二百餘 帝王二百八世は行々
 上古中世近世と時代の易るのありて 一百員あり 臣智の將その行ひの一を以て清ふ
 以八十人小十種の元象のりあるは推測智累の變化ありされば此書と出右人坊
 好し小随つて巻と用けしその時代の風俗及び一治一礼の人も更なりその人これ
 出國家系或は詩文の佳化且もこれ小連之の物語巨細載りて
 この作られ諸事を集めて彼と心と愛さるその人の本傳と知り得捷なり
 是小補像を加ふる親しく童蒙の多小解と讀をあらんと思ふが志の金水老ハ
 多幸の丹誠今も綴り遊戯の書と尙も聽なりと云ふことなり

浪華書賈

羣玉堂

河内屋茂兵衛梓



東都葛飾戴斗画

花鳥画傳

初篇 全二冊

一勇齋國芳画

一勇画譜

全一冊

北齋爲一老人画

繪手本水滸画傳

全一冊

抑川前重信画

繪手本水滸画傳

全二冊

此書々花鳥草木此若河何れり
 輯まれば画と再と入雅児と油と需
 どの画法と云つて重宝の画手本なり

國芳多年此工夫と凝り新奇妙案の異
 えりこたふすりて画きたる普通通
 画譜の扱と雲泥の差ありて世小好
 うる画本なり

此画ハ画れ老人の筆に水滸傳二百八人乃
 者像と丹精製細筆と世に画手本第一書なり

此画ハ抑川先生此筆より水滸傳
 一百八人乃英雄と景ありておのこは
 附と畫業此畫と好り人の便あり

葛飾戴斗画

英雄圖會

一勇齋國芳画

全一冊

三國英勇画傳

全一冊

忠臣銘々画傳

全一冊

同画
漢 奇 英 泉 画

畫本錦之囊

全一冊

萬職圖考

初篇二篇三篇
四篇五篇全五冊

此の書々本朝英雄良將名士の肖像と昔
飾大人細字に画工せしむるを小傳
りておのづから諸君を求く上候一冊
あり其異韓蜀三國は其の名を以て英雄と
りしにあらうと小傳と傳しと重なるに
守世に名不ふ一人勇舟が筆力と揮ひ
今水画傳傳し少くもあらばるる
以書に赤穂の義士四十七個成忠の
國芳大人肖像画とせられ求く上候
以終年八金洞藏就職辰物物物
塔宮殿の形物根付指筆漢端全を飾
妙陶器物物物物物物物物物物
初篇二篇三篇四篇五篇全五冊

此の書々本朝英雄良將名士の肖像と昔
飾大人細字に画工せしむるを小傳
りておのづから諸君を求く上候一冊
あり其異韓蜀三國は其の名を以て英雄と
りしにあらうと小傳と傳しと重なるに
守世に名不ふ一人勇舟が筆力と揮ひ
今水画傳傳し少くもあらばるる
以書に赤穂の義士四十七個成忠の
國芳大人肖像画とせられ求く上候
以終年八金洞藏就職辰物物物物物
塔宮殿の形物根付指筆漢端全を飾
妙陶器物物物物物物物物物物
初篇二篇三篇四篇五篇全五冊

大阪書林

河内屋茂兵衛 梓

六樹園大人著

都乃手ぬり 全一冊

江戸の地味な色紙に
浅州の両山に
我和文とて
その名文あり

徳齋系先生著

先哲像傳 全四冊

先哲名家の事蹟の
傳を
時
聞人雜技
省像と真跡と集り各小傳とを

新著門集 全十冊

此書をい
作
衣實録
おの性名
洋
未曾有
山崎美成大人著

名家畧傳 全四冊

先哲叢談
世乃
言

羊王堂

淡洲樓馬馬大人評
開卷百笑 全二冊

此書の馬馬大人の集る如奇
物いさる今昔此物とよ
作してを若男女九より歩
中いふなけけうたまは長田
消し去夜の呆帳とよのぐ
以上もなれ一書に実不是と聞
えれをれ小笑と催やめり
嚴格の一人一人も絶倒せ
りやう一後して匠券百笑
疑するれ虚あるを知りて

浪華書房

心算稿通博勞町角

松亭金水著
太平樂皇國性質 全二冊

此書を儒者と俳者の説此異
あると漸と改しめうと古今
風俗の变化ありしと神社
祭に依りけるは誤なりといふ
後或は書ぞんじ三味線茶
悦豪富貴士と悔る支那喧
やうむいには戸の嘆云その外
筆てうとんは何にれとを
此の小説とけけきる孫書り

河内屋茂兵衛藏板

東都川關先生著
早引人物故事 全部二冊

此書ハ本朝の昔より近世
迄の侍身連汝俳諧の達人
風流俳優名茶
いりすて由なる人々を
時代は史びり小奉げの
安く記し故人と搜索する
此書は山敵より味吳服
食茶草本花菜黒
万物近代素船此年曆
流書馬侍汝連非香
提藝及び是居ホの起
原人備雜事年中行用
故実余ハ何の順より
初すうとふと毒く
たまに批右ふを博識
乃捷徑とる此奇書
此書を滿職此秘密
奥依ふつて
あか形ハ國政の
わが外諸
國乃春あひす
又ホそ
備工商の重宝
と形しり
の此書
これとる後
篇ふと
とる

同 誹林沾凉大人著
近代世事談 全部五冊 合卷三冊 後篇近刻

此書ハ本朝の昔より近世
迄の侍身連汝俳諧の達人
風流俳優名茶
いりすて由なる人々を
時代は史びり小奉げの
安く記し故人と搜索する
此書は山敵より味吳服
食茶草本花菜黒
万物近代素船此年曆
流書馬侍汝連非香
提藝及び是居ホの起
原人備雜事年中行用
故実余ハ何の順より
初すうとふと毒く
たまに批右ふを博識
乃捷徑とる此奇書
此書を滿職此秘密
奥依ふつて
あか形ハ國政の
わが外諸
國乃春あひす
又ホそ
備工商の重宝
と形しり
の此書
これとる後
篇ふと
とる

町家 萬寶 高賣仕法大成 全部六冊 合卷三冊

此書ハ本朝の昔より近世
迄の侍身連汝俳諧の達人
風流俳優名茶
いりすて由なる人々を
時代は史びり小奉げの
安く記し故人と搜索する
此書は山敵より味吳服
食茶草本花菜黒
万物近代素船此年曆
流書馬侍汝連非香
提藝及び是居ホの起
原人備雜事年中行用
故実余ハ何の順より
初すうとふと毒く
たまに批右ふを博識
乃捷徑とる此奇書
此書を滿職此秘密
奥依ふつて
あか形ハ國政の
わが外諸
國乃春あひす
又ホそ
備工商の重宝
と形しり
の此書
これとる後
篇ふと
とる

手鳩堵菴先生述
女訓ヤンマセンクニノリ
姿見
女前訓メノノリ種
繪人
全一冊

録田柳弘先生作
心學五則ココロガクゴトク
全壹冊

六樹園大譯
通俗排門錄ツウソクハヅレ
前篇六冊
後篇六冊

浪速書肆

漢帝英泉画

心每指通性芳町角

河内屋茂兵衛藏版

此書ハ女子七才ノ教由ニ来スルモノト第一ニ戒書ニ
考テ貞操ノ乃ト失リテ實ニ節操ヲ守ルニ
志スルモノト洗ハサレテ式法ヲ守ルニ志スルモノト
衣服ヲ着ルニ志スルモノト外ニ女ヲ愛スル事ヲ戒メテ
心ヲ守ルニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ
人倫ノ正路トシテ持敬積仁知命ノ道ヲ長
此五則ハ何れも學ビテ守ルニ志スルモノト故
先生又則ノ人ニ志スル事ヲ戒メテ心ヲ守ルニ志
スルモノト仁義ノ道ニ志スルモノト此書ハ女子
ノ第一ノ書ニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書
ニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ志スル
モノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ志スルモノト

此書ハ女子七才ノ教由ニ来スルモノト第一ニ戒書ニ
考テ貞操ノ乃ト失リテ實ニ節操ヲ守ルニ
志スルモノト洗ハサレテ式法ヲ守ルニ志スルモノト
衣服ヲ着ルニ志スルモノト外ニ女ヲ愛スル事ヲ戒メテ
心ヲ守ルニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ
人倫ノ正路トシテ持敬積仁知命ノ道ヲ長
此五則ハ何れも學ビテ守ルニ志スルモノト故
先生又則ノ人ニ志スル事ヲ戒メテ心ヲ守ルニ志
スルモノト仁義ノ道ニ志スルモノト此書ハ女子
ノ第一ノ書ニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書
ニ志スルモノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ志スル
モノト此書ハ女子ノ第一ノ書ニ志スルモノト

書 林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 四日市	山城屋政吉
同 本石町十軒店	英 大 助
同 下谷梅成道	英 文 藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
大阪心齋橋南本町角	河内屋藤兵衛
大阪心齋橋筋博愛町角	河内屋茂兵衛

